

Characteristics of gastric cancer in negative test of serum anti-*Helicobacter pylori* antibody and pepsinogen test: a multicenter study
(抗 *H.pylori* 抗体及び血清 PG テスト陰性胃癌の特徴)

木曾 まり子

(医歯薬保健学研究科 医歯薬学専攻)

【要約】

Helicobacter pylori (*Hp*)未感染者は胃癌リスクが極めて低く、胃癌検診におけるリスク層別化法として血清 *Hp*抗体とペプシノゲンを用いたABC検診が普及している。一般にA群症例は *Hp*未感染者とされるが、A群症例においても胃癌が診断されることがある。そこで、A群胃癌に関して全国多施設調査を実施した。登録されたA群胃癌は109例であったが、萎縮性胃炎のない真のA群胃癌はわずか7例(6.4%)であった。さらに、その組織像は全例において粘膜内印環細胞癌(SRCC)であった。この研究により、ABC検診の限界が示されると共に、*Hp*未感染胃癌の病理学的特性が示された。

*Hp*未感染者に生じるSRCCは、生物学的に低悪性度であることが報告されつつある。そこで、*Hp*未感染SRCC 7例9病変のFFPE標本からDNAを抽出し、10個の癌関連遺伝子変異を検討した。その結果、*Hp*未感染SRCCでCDH1変異、TP53変異が確認された。その頻度は *Hp*現感染SRCCと同程度であった。非遺伝性 *Hp*未感染SRCCにおける腫瘍関連遺伝子変異を報告したのは、本研究が初である。*Hp*未感染SRCCは *Hp*現感染SRCCと同様の悪性度を持つ病変と評価することが妥当と考えられた。